

2017年度 センター試験 日本史B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	● あり	○ なし
<p>総評 大問別の配点比率は昨年と同じであった。難易度については、空所補充や年代配列で従来よりも判別しにくい問題が多かったため、やや難化とした。例えば、年代配列問題では、従来は短文ごとで時代が大幅に異なる文が多かったが、今年度は比較的近い時代の中での並び替えが出題された。一方、出題形式に変化はなく、表の読み取り・写真・史料・地図など従来通りの出題であった。その中で、写真を利用した年代配列問題は今までにない出題であったので、新傾向ありと判断した。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	移動や情報伝達的手段	16点	船と鉄道を利用して旅行している大学生の手紙を題材とした出題。石見大森銀山や舞鶴の引揚げ船の話など、世界遺産を意識した問題であった。三枚の写真とその写真につけられた見出しや資料の情報から写真を年代順に並び替えるという、新しい傾向の問題が出題された。
第2問	古代の思想・信仰と政治・社会との関係	16点	古代の仏教を題材とした文章ではあったが、設問はそれに関する政治や外交の問題がほとんどであった。また、小問6問中4問が世紀ごとの時期判別を必要とする問題であり、用語の暗記をしていても時期を判別できなければ解答できなかった。
第3問	中世の政治・社会・文化	16点	鎌倉幕府・建武の新政・室町幕府などの政治を中心とした出題であり、標準的な問題であった。問2の史料読み取り問題は問題文に正解を誘導する文言が入っており、解答は容易に導き出せた。
第4問	近世の文化・政治・社会	16点	文章Aは近松門左衛門を題材とした元禄期からの出題で、文章Bは松平定信を中心とした天明～寛政期の出題であった。特に問3の選択肢にあった4人の人物がすべて元禄美術に登場する人物で構成されていたので、正答の判別にやや迷う受験生もいただろう。
第5問	幕末から明治期の大阪（大阪）	12点	従来の第5問は明治期を中心とした出題であるが、今年度は幕末から2問、明治期から2問が出題された。幕末から近代にかけての人物に関する出題が多くみられた。
第6問	近現代の公園	24点	近現代の公園で起きた出来事に関する出題。「八幡製鉄所」や「長崎造船所」など、明治期の産業革命遺産を意識した設問がみられた。第5問にも「三池炭鉱」に関する問題が出題されている。例年、第6問では小問で2問程度戦後史から出題される傾向があったが、今年度は戦後史だけで構成された小問はみられなかった。